

## 学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	小島 明子 【比較社会文化学専攻 平成20年度生】	<p>本論文は清末から民国初年にかけて活躍し、近代的批評の先駆けとなったと評価される王国維（1877～1927）の青年期に焦点を当て、王の経歴、彼が関わった雑誌『教育世界』の編集・出版をめぐる状況、従来より王の文学を考える上でキーワードとされてきた「人間」の語の意味等について再検討し、中国文学における古典と近代の継承と断絶の問題、中国文人における政治と文学の問題等について考察したものである。特に、『教育世界』の調査分析を通じて、清末における日本近代教育学受容に辻武雄なる人物が深く関与していたことを明らかにした点は、学界でも高く評価された。また、『教育世界』の翻訳記事出典一覧や「人間」の用例など、最終的には資料編に収められることとなった資料は、今後の王国維研究にとって重要な資料となるであろう。審査委員一同、文書記録及び詩詞を含む王の作品や関係者の文章を丹念に照合して、これまで不明であった伝記的事項を明らかにした点、『教育世界』についての調査が詳細をきわめ、これまで放置あるいは誤認されてきた、多くの翻訳記事の出典を明らかにした点、また「人間」の語についても、中国古典における用例を博搜し、さらに王の近代思想受容のチャンネルとなった近代日本における用法も参照しながら、これまで研究者によって、中国の伝統的な用法である「この世」「世間」の意味か、現在の日本語における「ニンゲン」の意味か、二項対立的にとらえられてきた感のある語が、王において両者が絡み合った複雑な意味を有することを主張する点など、オリジナリティにあふれた論文であることは認めたが、タイトルが論文の内容にそぐわないこと、先行研究に対する評価等に独善的な部分が見られること、記事目録や用例一覧が本文中に混在して読みにくいこと等について修正の要求がなされた。申請者はその要求に誠実に対応し、タイトルを改め、章立てを変更するなどの修正を行うと同時に、文章も大幅に改めた。審査委員会は、十分な修正がなされたと判断し、8月24日に公开发表を行った。申請者は大部の論文の要旨を要領よくまとめて発表し、聴衆からの質問に対しても的確に応答した。公开发表後に開かれた最終審査において、申請者が十分な学力を有することも確認した。以上を踏まえて、申請者が博士（人文科学）、Ph. D. in Chinese Literature の学位にふさわしいと判断する。</p>
論文題目	青年期王国維の文学的営為と清末雑誌『教育世界』 —「人間」とその背景をめぐる—	
審査委員	(主査) 教授 宮尾 正樹	
	教授 伊藤 美重子	
	教授 浅田 徹	
	教授 岸本 美緒	
インターネット 公表	准教授 伊藤 さとみ	
	<p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・㊦）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 2em;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 2em;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 2em;">㊦. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 2em;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 2em;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	